

南風通信<1月号>



発行元
南昌江内科クリニック
TEL 092-534-1000
FAX 092-534-1001
www.minami-cl.jp

《クリニックの行事案内》



《12月のお花》

- | | |
|-------------|------------|
| 【1月】 | 【2月】 |
| * 15日・新年会 | * 14日・お話し会 |
| * 17日・お話し会 | * 25日・調理教室 |
| * 25日・糖尿病教室 | |



《新年のご挨拶》（院長 南昌江）

和の時代になって初めての新年、あけましておめでとうございます。お正月は穏やかなお天気の日が続きましたね。私はこのお休みはほとんど毎日、日課の早朝ランニングを楽しみました。初日の出も、いつもランニングをしている大濠公園から見ることができました。

ランニングを始めてから約20年になりますが、お正月も早朝走ってその後に箱根駅伝を見ることが恒例になっています。箱根駅伝では、毎年若人たちの情熱に感動して涙し、エネルギーをいただいています。私もできるだけ長く走ることができるように筋力と持久力を鍛えたいと思っています。今年オリンピックイヤーです。皆様も何かスポーツを始めてみませんか？

また、今年第26回小児患者期糖尿病学会の学会長を仰せつかり、6月28日に開催します。私にとっては初めて学会を任せられる立場となり、その責任を重圧に感じておりますが、皆様の期待にこたえられるような学会にしたいと思っております。昨年夏から医師の人数が増え体制が少し変わりました。福岡大学の川浪大治教授をお迎えし福岡大学病院とも連携をとりながら、より充実した糖尿病診療と研究を目指してスタッフ一同頑張っております。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

《南糖尿病臨床研究センター》

センター長：前田 泰孝

明けましておめでとうございます。臨床研究センターの昨年は、一般社団法人として独立し、学会賞を受賞するなど一定の評価を得た「確立」の年でした。本年は、さらなる「成長」を目指します。いくつかの研究が実を結びましたので待望の論文を目指し、得られた知見は真っ先にクリニックの皆様へ還元いたします。また、東京女子医大で研鑽を積まれた眼科の廣瀬 晶先生を元日付で新たに研究員として迎えるなど、組織としても責任が高まります。福岡大学の学生実習の受け入れも行い、外部の協力機関との共同研究もいくつか始まります。それぞれの患者さんにあった医療の推進と先進医療の導入をバランス良く行い、糖尿病医療の未来へ明るい希望をもたらしたいと願います。



《1型糖尿病セミナー》

11月30日（土）毎年恒例の第14回1型糖尿病セミナーがJR博多シティで開催されました。参加者は講演のみが233名、グループディスカッションの参加184名でした。

まず慶應義塾大学病院の小谷先生の講演があり、ご自身も1型糖尿病ということで、体験を踏まえた貴重な話が聞けました。その後はテーマ別のグループに分かれました。私はガールストークのグループで、主に30代が多く、今後結婚、出産を考えている方が集まり、意見の交換をしました。ご夫婦で参加されている方もいらっしゃいました。ご主人がとても協力的で病気について知り、サポートしたいと、よく勉強されていたので、皆さんとても関心していらっしゃいました。スタッフの本高さんがポンプ使用の出産経験者ということもあり、皆さんにアドバイスをしていました。最後は皆さんでラインの交換をして終わりました。（文責：受付 米本）

二村先生も来られていました！



博多駅前のイルミネーション



《クリスマス会》



12月21日（土）14：00～クリニックにて小児1型糖尿病患者さんとその保護者向けのクリスマス会が開催されました。子供（患者さん・兄弟）32名、保護者18名、ヘルパーの大学生19名、南先生、前田先生、堤先生、重岡先生、当院スタッフ10名の参加で、毎年恒例ですが大盛況でした。子供達はヘルパーさんと一緒にブラバン作りとパフェ作りをしました。サマーキャンプぶりに再開したお友達とも話が盛り上がっていましたね。そのあとは、曇り空の下小学校の校庭で外遊びをいっぱい楽しみました。保護者の方は、患児の年齢別3グループに分かれて、医師と医療スタッフを交えて意見交換がありました。同じ病気を持つ親として、日頃の悩みや不安を共有でき、「安心した」「心が軽くなった」との感想も聞かれました。最後、子供達はヘルパーサンタクロースからメッセージカードを一人一人に手渡されました。子供たちは「ひとりじゃない」と勇気をもらい、保護者もそれぞれに有意義なクリスマス会となりました。（文責：高田佳南）

